



●わが社のCSR活動

CSR

事業活動を通じたCSR

株式会社ソルコム



1. はじめに

ソルコムグループは、企業活動上求められるあらゆる法令、社内規範の順守はもとより、事業活動におけるさまざまな局面において、企業としての社会的責任（CSR）を果たし、社会から信頼される会社でありたいと考えています。そのため、社員1人ひとりが高い倫理観を持って自らを律し、誠実な企業活動を行う上での道しるべとして、行動指針＝ソルコムマインド（図1）を定め、その具体的な期待と留意点を示した「倫理・行動規準」（図2）を日々唱和して意識を高めています。

企業が、将来にわたって事業活動を継続し、企業価値を高めるためには、CSRとして、地球環境への配

慮やステークホルダ（お客さま、社員、株主、地域社会等）と良好な関係を保っていくことが求められており、ソルコムグループでは、これらを事業活動のなかで応えていくように努めています。

ここでは、5つの観点から活動をご紹介します。

2. 安全の取組み

(1)ソルコム労働安全衛生マネジメントシステム

経営目標の1つとして示している「真に頼られる会社」をめざすうえで、『お客さまに喜ばれ、愛される』『お客さまに、ご迷惑をかけない』を基本として、お客さまからの信頼を確保することは、事業運営の重要

な課題であることは言うまでもありません。

その中でも、事業の基本である「安全」について、ソルコムグループ全社員が一丸となった取組みを強化するため、平成26年6月にソルコム独自の労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、当年より「第69期安全衛生管理計画」を展開しています。

関連して、作業現場の負担を軽減させるため、事故・ヒヤリハット情報の共有化や安全朝礼のバーチャル参加など、現地においてタブレット端末を活用できるようシステム開発（図3）を行っています。

(2)交通事故対策

平成26年9月から本社車両116台について、交通事故の削減、車両の

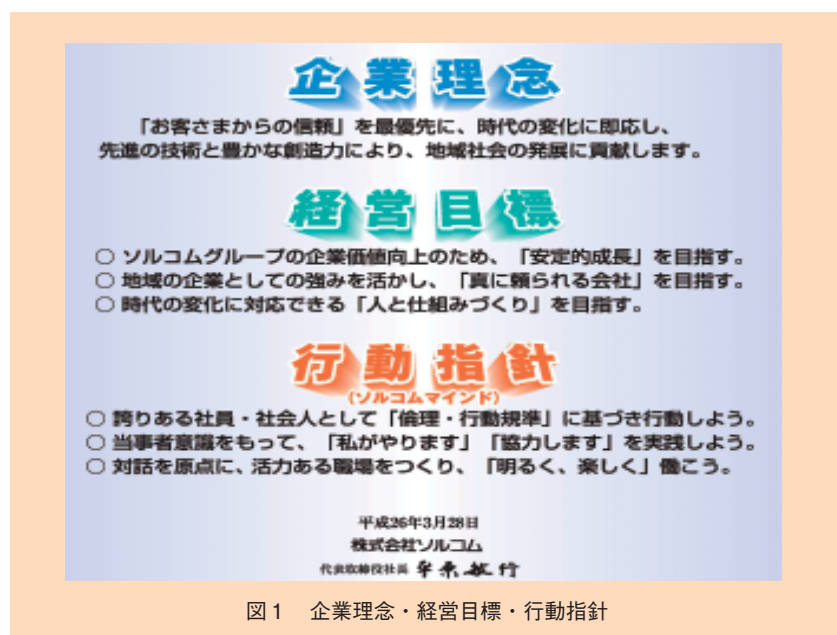


図1 企業理念・経営目標・行動指針



図2 倫理・行動規準

効率的運用と燃費の向上を目的にテレマティクスサービス（オリックス自動車株）（図4）の運用をスタートしました。急加速・急減速を控えた経済速度での穏やかな運転で、安全運転⇒エコ運転⇒燃費向上へとつなげ、事故とコストの削減をめざしています。

(3)社員安否確認システム

自然災害等の被災時の福利厚生等の支援の観点ならびに会社業務運営継続の観点から、緊急事態発生時の「社員安否確認」を迅速かつ効率的に行うため、携帯電話を使った社員安否確認システムを平成27年1月から導入しました。緊急時災害発生対応要領に基づき、自然災害発生等の緊急事態が予想、あるいは発生した場合に、社員およびその家族の安否ならびに家屋の被災状況等を確認します。

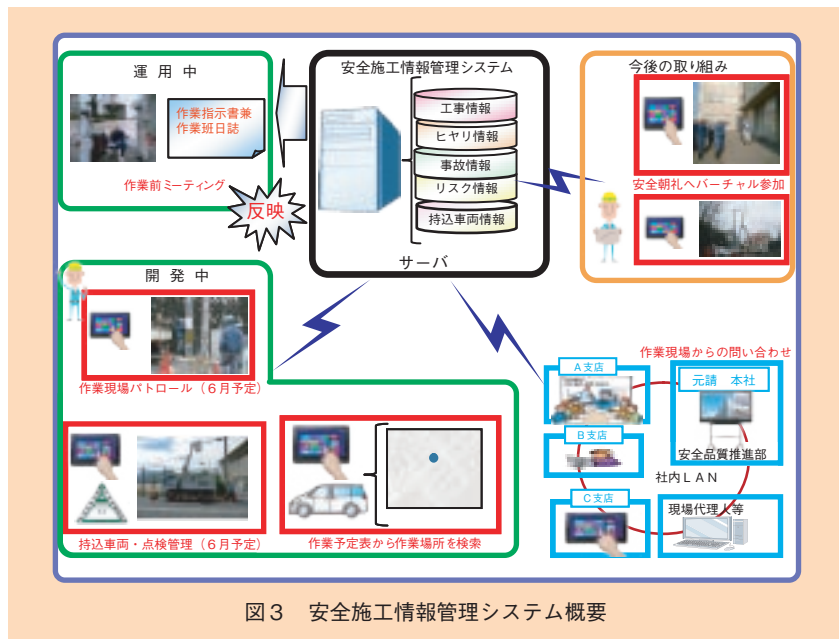


図3 安全施工情報管理システム概要

3. 顧客満足向上の取組み

お客さまの信頼確保の1つとして、技術力の向上と継承があります。メタル・光技術のマルチスキル者の育成、また、保守分野では早急な技術移転と建設・保守のマルチスキル者の育成を目的として、各種の技術研修や「ソルコムグループ技能競技大会」（図5）などにより、技術のレベルアップを図っています。

また、地域密着ビジネス推進委員会で毎月アフターケアコール等のCS情報の共有と検証をしています。



図4 テレマティクスサービスの運用イメージ

教育面では、SO工事の宅内工事担当等を対象に電話対応、お客さま対応の場面や、クレーム対応の基本についてロールプレイ（図6）を通じて習得する研修を継続しています。

4. 企業価値向上の取組み

(1)改善提案活動の刷新

原価改善活動により一定の成果は

あるものの、同じ作業を同様なやり方で続けるだけでは、限界があります。業務プロセスの見直し、標準化、さらには現場力向上につながる改善活動を行うため、「SOLCOM流新改善活動」（図7）を平成26年からスタートしました。

その浸透と活動の定着が重要なカギとなることから、「改善提案推進員」が先導し、速やかな実施・展開



図5 ソルコムグループ技能競技大会



図6 SO班お客さま対応研修



図7 新改善活動



地上1.5～2mで切断の場合 地上3m以上で切断の場合
図8 電柱切断機用飛散防止シート(寸法4,300×4,360mm)



図9 山口支店の太陽光発電設備

による効果実現のため、改善活動の活性化と質の向上に取り組みます。

SOLCOM流現場力向上の第一歩は、当事者意識を持つことです。当事者意識を持ち、自分の仕事だけでなく職場の仲間、周りの仕事にも関心を向けて協働を進めます。そのような取り組みを通じて現場のつながりを強化し、これまでのやり方、習慣にとらわれない変革にチャレンジします。そして、現場での小さな変革

をオープン（展開）にし、洗練・共有することによって全社運動として広げていくことをめざしています。

(2)継続的な技術改善

テクニカルセンタにおいて、改善提案をベースに技術改善に取り組み、昨年は、工事中における地域環境に今まで以上に配慮する必要があるため、電柱撤去時に電柱切断機から発生する粉塵、騒音を低減するシート（図8）の開発に取り組みました。引き続き、現場の意見をもとに技術改善に取り組んでいきます。

6. その他の取組み

(1)コンプライアンス教育

毎年10月にソルコムグループの役員ならびに幹部を対象にコンプライアンス研修を実施しています。平成26年は、「最近の事例から学ぶ 前向き企業のコンプライアンス」というテーマ（図11）で、最近の不祥事の分析から、コンプライアンスの企業活動における位置付けを、経営活動のスピード感のなかで捉え直し、対応力を高めるポイントについて講演をいただきました。不祥事の芽は、どこにでもあることを前提



ドールマンシステム



現場用LED照明機器
図10 環境配慮商品

5. 環境関連事業の取組み

新たな事業分野を開拓し、ビジネスとして結びつけ、安定成長していくことが、社会的貢献をするうえで、極めて重要な取組みです。既存のお客さまへの深堀り、新たな技術領域への挑戦、そして首都圏を含めた新たなエリアの拡張などにより、事業の伸展を図っています。

平成25年山口支店に太陽光発電設備の検証設備構築（図9）後、多くの発電事業者から屋上設置の太陽光発電設備工事を受注するなどの営業活動を展開しています。

また、環境配慮商品（図10）として、ドールマンシステム（ビル・



図11 グループ幹部向けコンプライアンス研修

に、平時からのリスク管理の重要性を学びました。

社員向けには、毎年5月にeラーニングにより「倫理・行動規準」の理解を深める研修を実施しています。

(2) 災害復旧支援

平成26年8月20日未明、前日より降り続いていた豪雨により土砂災害が発生し、広島市安佐南区と安佐北区の一部地域が甚大な被害を受けました。NTT西日本さまの通信設備も甚大な被害を受けたため、ソルコムグループもNTT西日本さまと一体となって復旧支援に加わり、発生直後から9月10日まで、社員・協力会社（建柱班、接続班、土木班）の総勢1,256名が被災地に入り情報通信設備の復旧を行いました（図12）。後日、NTT西日本広島支店さまより、迅速なサービス復旧作業を行い、NTTの信頼性確保に大きく貢献したとして感謝状をいただきました。

また、ソルコムグループとして社会福祉法人中国新聞社社会事業団を経由し日本赤十字社へ義援金を寄贈しました。



図13 AEDシステムの導入と講習

(3) その他

事業関連以外にもAEDの設置（図13）、献血活動（図14）、周辺清掃活動（図15）などにも取り組んでいます。

7. おわりに

変化の早い時代において、企業は新しい物事に挑戦する精神と行動力



図14 献血活動



図15 周辺清掃活動（本社）



図12 広島市の土砂災害現場での復旧支援

を尊重するとともに倫理的で強靱な体質を身に付けた企業風土に変身する必要に迫られています。

これからも社員1人ひとりがこのことを自覚し、より良い会社を目指して取り組んでまいります。